



©山田風太郎・せがわまさき 講談社/GONZO
©UNIVERSAL ENTERTAINMENT

◎バジリスク～甲賀忍法帖～絆

2010年に登場した第1弾、2012年に登場した第2弾ともに、長期にわたり稼働に貢献したパチスロ「バジリスク」シリーズ最新作です。ユニバーサルエンターテインメント初のAT機となる本作でも、「ループする安心感」と「自力継続」をキーワードにした、おなじみのバジリスクシステムは健在。新機能も搭載した内容に迫ります。

純増約2.8枚/G、1セット40GのAT「バジリスクタイム」を搭載。3種類の「バジリスクチャンス」、シリーズ新機能の「絆システム」、AT中に突入するチャンスゾーン「無想一閃」などで期待感を盛り上げる。

シリーズI・IIを融合したAT機

ATの純増枚数は約2.8枚/G。擬似ボーナス初当たり確率は1/139（設定1）で、出玉率は97～119%、コイン単価は約3.1円（設定1）。ベースは1000円あたり約31Gです。

■「バジリスクチャンス」

「バジリスクチャンス」(BC)を介してARTに突入した初代同様、本機もBCを介してATに突入します。

BCは擬似ボーナスで、通常BC、ムービーBC、プレミアムBCの3種類。

通常BCは通常時、チャンス役などを契機に突入し、ベルナビ8回（純増約40枚）。また、AT当選の告知パターンとして、チャンス告知、後告知、完全告知の3種類が用意されています。

チャンス告知は液晶演出で原作の主人公「弦之介」が敵を全滅させるか、「弦之介」が“開眼”すれば、ATが確定。後告知は、液晶演出の最終画面で弦之介の恋人「朧」が「弦之介」に出会えれば、ATが確定。完全告知は弦之介の敵「天膳」のカットインが入れば、ATが確定します。

■「ムービーBC」と「プレミアムBC」

一方、「ムービーBC」（純増約40枚）はAT中に当選するBCで、同BC中にレア役を引くと、ATセット数・ゲーム数上乗せのチャンスとなります。

「プレミアムBC」は白7ぞろい（当

選確率約1/50000）から突入するプレミアム擬似ボーナス（純増約100枚）で、ベルナビ20回+ATの高ループが確定。前作のBIG同様、大爆発の起点となりうるポイントです。

なお、今回のバジリスクチャンスは天井が500G。10回連続してATに入らなかった場合、11回目に必ずATに入る救済機能もあります。

■AT「バジリスクタイム」

「バジリスクタイム」は純増約2.8枚/G、1セット約40GのAT。前作同様、「追想の刻」と「争忍の刻」という二つのパートで形成されています。

「追想の刻」は10G以上継続し、終了後は必ず「争忍の刻」に移行。「争忍の刻」はミニキャラバトルのループ抽選方式で、ループ率は25・33・50・66・80%の5種類。最終バトルで「弦之介」が勝てば、再び「追想の刻」へ移行します。

■新搭載「絆システム」

シリーズ初搭載となる機能。「争忍の刻」開始時に対戦キャラクターを決める際、「縁(チャンスリプレイ)」「恋(共通ベル)」「想(強・弱チェリー)」「絆(全役)」という4種類のアイコンのいずれかが画面中央に選択されれば、それぞれに対応した役でのBC当選率がアップします。

■「無想一閃」

主にAT中のBC当選の一部で突入するチャンスゾーンで、本機でもっともアツいポイント。10G+α以内に弦之介が開眼（押し順ベルとレア役で抽選）すれば、ベルナビ8回まで継続する「真瞳術チャンス」に突入（期待度約40%）。失敗してもBCが確定します。

■「真瞳術チャンス」

赤凶柄がそろうたびに、ATセット数を上乗せ。平均は5セット以上。液晶上に金色の7が出現すれば、「真瞳術チャンス」が1ゲーム連します。

本機は1月26日に市場導入予定で、約5万台販売予定とされています。また、ユニバーサルエンターテインメント初のAT機で、設定6の出玉率が119%など、魅力は十分。大事に使ってほしい機械です。

今も「バジリスク～甲賀忍法帖～II」を設置しているお店が多いと思いますので、それといかに共存させられるかがポイントになるといえるでしょう。

PROFILE

糸柳達成 (いとやなぎ たつなり)
株式会社アテイン 代表取締役
関東の老舗ホール企業で約17年半勤務。店長としても新規・リニューアルを含めて6店舗を経験。業界歴は約23年。現在はホールコンサルタントのほかにも店長研修、セミナー講師、集客企画などマルチな活動を行っている（詳しくは<http://at-attain.com>参照）。「パチンコ必勝ガイド」「パチスロ必勝ガイド」など、ファン雑誌への登場も多数。